

# 平成29年度学校経営報告

## 1 平成29年度の取り組み目標と方策

### (1) 教育活動への取り組みと自己評価

#### [ 学習指導 ]

#### 1) 基礎基本の定着

(取り組み) ①「都立高校学力スタンダード」に基づき、具体的な学習目標を明示し、組織的・効果的な指導を行う。具体的には、明確な目標に基づき指導と評価を行い、その評価に基づいて次の②から⑤までの指導等を行うことにより、指導内容・方法の改善を図る。また、生徒の学力を正確に把握し、繰り返し指導することで、学力を確実に定着させる。

②50分間の授業時間を有効に活用し、生徒の能力に応じた指導内容や授業展開、使用教材の工夫を講じる。

③ICT機器を活用した授業を展開し、分かりやすい授業に努める。

④朝学習や補習補講を組織的に実施する。

⑤家庭学習の定着に向けた小テストや学習課題を継続的に実施する。

(自己評価) 英語と数学では習熟度別授業を実施した。補助教材は習熟度に応じたものを使用し、生徒の能力に合わせた授業を行った。これをとおして生徒の学習意欲を向上させるとともに、基礎学力の定着を図ることができた。ICT機器は26年度からの改善が実を結び、授業改善に生かせるようになった。一方で、家庭学習の定着では不十分な生徒がいるため、組織的な対策が必要である。

#### 2) 進学生徒への対応

(取り組み) ①習熟度授業（英語・数学）の中で、大学進学に対応した質の高い授業を実施する。

②長期休業中の補習・補講の中で、発展的な学習内容を学ばせて能力を高めさせる。

③校内で自学自習ができる教室を確保し、積極的に学習できる環境を整備する。

(自己評価) 習熟度別授業では進学に対応した授業を実践できた。さらに、長期休業日中の補習・補講により、生徒に発展的な能力向上を身に付けさせることができた。また、自習室を平日は午後7時まで、休業日は5時まで開放した。

#### 3) 家庭学習の促進

(取り組み) ①日々の授業を大切にさせ、授業の予習・復習を中心に家庭学習を習慣化させる指導を徹底し、家庭学習時間の拡充を図る。

②自ら計画的に学習できる能力を養わせる。

(自己評価) 目標を達成できていない項目である。教科ごとに指導を進めているが、すべての生徒に浸透していない。総合的な学習等をとおして組織的に改善する必要がある。

#### 4) 言語能力の向上

(取り組み) 生徒の思考力・判断力・表現力等を育成して生きる力を育むために、全教科で言語能力の向上を図る。

(自己評価) 国語科を中心にした活動から他教科への進展が見られた。このような活動が生徒の表現力向上に繋がろうとしている。

#### 5) 学力不足生徒への対応

(取り組み) ①教科間連携を促進し、自らの研鑽を深めるとともに的確な情報を収集する。

②生徒の詳細な内容を把握するため、校内研修や情報交換の場を定期的に設定する。

③特別補習（学力別等）を実施するなど、個に応じた指導体制をつくとともに評価の観点の見直しを行う。

④生徒一人一人の学習状況を把握し、段階的な指導を行う。

(自己評価) 学校評価アンケート結果から、生徒の授業満足度で否定的な意見がなくなった。一方で、躓きのある生徒の保護者からより丁寧な指導を求める意見もあった。よりきめ細やかな指導を進めながら、組織的な対応強化が課題である。

#### 6) 学校設定科目「人間と社会」の充実した実施

(取り組み) ①生徒の意欲的な活動に向け、事前指導、事後指導の改善や見直しを図る。

②適正な活動先の選定に向け、事前調査や検討を詳細に行う。

(自己評価) 八丈島の貢献活動として定着しつつあるが、活動に取り組む生徒の姿勢は積極的であり、一定の成果をあげている。

#### 7) その他の取り組み

(取り組み)

①生徒による授業評価の活用、校内研修の充実、各学期の授業公開週間の実施等により授業力の向上に努め、より質の高い授業を目指す。

②組織的に若手教員（学習指導力・生活指導力等）の育成を図るために、相互の授業見学、ベテラン教員からの指導等、OJTの推進に努める。特に、授業見学については、学期に1回実施することを目標とする。

③「総合的な学習の時間」及び学校設定科目「郷土文化」等、地域の特色を生かした授業を通し、地域と連携し、地域理解と郷土の文化・芸術の理解と伝承に努める。

④「読書を通じて自己や社会に目を開き、言語力・読書力・表現力を養う。」ことを目的として、生徒の読書意欲を向上させるため、『読書感想文コンクール』を実施する。

(自己評価) 学力スタンダードは、機能している。また、授業見学は、一部の教員に限られており、活性化するための方策が必要である。生徒による授業評価を活用した校内研修は例年並みに実施できた。研修会への参加者が増えたことにより効果が期待できる。学校設定科目「郷土文化」等の地域の特色を生かした授業では、地域連携をより深める実践ができた。

### [ 生活指導 ]

#### 1) 基本的生活習慣の確立

(取り組み) ①規範意識の育成に向け、ルール違反を見逃さない体制づくりと教員間の共通認識の徹底を図るため、拡大生活指導部会を各学期開催する。

②校内では挨拶の励行や朝の校門指導を積極的に実施する。また、校内巡回等を継続的に実施し、暴力等の問題行動の防止に努める。

③八丈警察署と積極的に連携を図り、交通安全講話や交通安全教室等、交通安全教育の充実を図る中で、交通事故0（ゼロ）を実現する。

④八丈町の青少年の健全育成活動に参加して、地域との連携を図り、青少年の指導・育成に協力する。

(自己評価) 服装指導については、朝の立ち番指導・朝礼時の指導・ホームルームでの指導の結果、殆どの生徒がルールを守るようになった。登下校時の交通ルールの遵守については、LHR・朝礼時の指導、校外巡視、自転車指導の強化（許可制の実施・許可ステッカーの貼付）を行った結果改善されてきている。課題としては、登下校時一部の生徒に依然として左側歩行、スマートホンを使用しながらの歩行、音楽を聴きながらの歩行が見受けられる。また、遅刻指導については、特定の生徒が遅刻を繰り返している。登下校時の交通ルール・ヘルメットの着用の遵守については、校外指導の強化・交通安全教育の更なる充実を図る必要がある。遅刻指導については、遅刻を繰り返す生徒への保護者と協働した細かい指導が必要である。

## 2) 人権尊重精神の確立

(取り組み) ①毎月、朝礼を実施し、集団生活での行動のあり方やマナーを育成する。

②ホームルーム及び朝礼等を通し、人権尊重、人命尊重の精神の育成に向けた訓話、講演会を積極的に実施する。

(自己評価) 全教育活動をとおして実践でき、学校評価アンケートでは生徒が肯定的な評価をしている。

## 3) いじめを防止する組織的な対応

(取り組み) ①いじめの未然防止のために、教員の指導力の向上と組織的な対応を行う。

②いじめの早期発見のために、定期的な「生活意識調査」を実施するとともに、学校いじめ対策委員会を中心にいじめの確実な発見に努める。

③いじめを把握した場合には、適切ないじめの解決のための対応方針を策定し、学校全体で取り組む。

④重大事態が発生した場合には、学校、保護者、警察署等の関係機関と連携し、被害生徒を守り通す体制づくりを行う。

(自己評価) ふれあい月間に加えて、いじめに関するアンケートを実施した。また、第1学年の生徒にはスクールカウンセラーによる全員面接をとおして相談体制の周知を行い、外部機関と連携する学校サポートチームを組織した結果、いじめ0（ゼロ）を実現できた。

## 4) 学校安全教育の充実及び防災体制の確立

(取り組み) ①生活指導部を中心に、各教科、学年と連携を図りながら、学校安全計画に基づいた安全学習・安全指導にあたる。

②災害から自らの生命を守るために必要な「自助」の能力を身に付けさせ、防災に関する意識を高め実践力の向上を図るとともに、助け合いや社会貢献など「共助」の精神を育み、人間としての在り方生き方を考えさせるため、一泊二日の宿泊防災訓練を第1学年で実施する。

③防災訓練（4回）を実施することにより、防災意識を高めるとともに、高校生として都民の一人として適切な行動がとれるようにする。

(自己評価) あらゆる場面を想定した避難訓練を年に4回、第1学年の宿泊防災訓練では救命講習を実施し、今年度防災士の資格取得をした教員・生徒が講師として被災地の説明・講演を行った。東京都総合防災訓練が本校で行われ八丈島全体の大規模な訓練となった、火山噴火に備えて学校として町や消防が取り組んでいないマニュアルを作成・防災推進委員会において意見徴収を行った。

## 5) 相談活動の充実

(取り組み) ①特別支援教育コーディネーターを中心に相談活動の活性化を図るとともに、養護教諭と連携を取りながら、スクールカウンセラーを有効に活用し、相談活動を充実する。

②特別支援教育委員会を定期的に開催し、支援を必要とする生徒を把握するとともに、支援の在り方等を全教職員が共有する。

(自己評価) 特別支援教育コーディネーターを中心に生徒情報の共有を図り、具体的な支援方法への取り組みができるようになった。また、月1回の定期的な情報共有をとおして、支援を必要とする生徒への対応を全教職員が共有できた。

スクールカウンセラーとの連携により子家センに通報により生徒の安全が確保できた。

## 〔 進路指導 〕

### 1) 3年間を見通した進路指導の充実

- (取り組み) ①進路指導部と学年の連携を密に図り、進路指導計画を立案し、計画に基づいた指導を行うとともに、全学年の進路担当者と進路指導部との合同部会を月1回実施して、各学年に進路情報の提供並びに流れを把握させ、早い段階の指導へ繋げていく。
- ②進路選択に向けた面接指導や講演会を年間3回以上実施し、自己理解を深めさせるとともに、自主的・自発的活動を促す。
- ③「総合的な学習の時間」を活用して、3学年の進路指導の充実を図る。
- ④高校3年間で、「一人一資格の取得・一検定の合格」を指導する。
- (自己評価) これまで実践してきた、1、2学年は各学期に1回の進路ガイダンス、3学年では定期的に分野別進路ガイダンスや個別指導を繰り返し実施できた。また、年度途中でキャリア教育の年間計画を精査し改定することができた。

### 2) 生徒が希望する進路実現に向けた積極的支援と施策

- (取り組み) ①「進路の手引き」を作成し進路希望実現のための情報を生徒に提供するとともに、キャリア教育全体計画に従った教育活動を、組織的・計画的に確実に実施する。
- ②拡大進路部会を各学期に開催し、生徒の状況や希望等について共通認識を図り、協力体制を構築する。
- ③長期休業期間中に進学希望者を対象とした組織的な講習を実施するとともに、外部模試、サテラインなどを定期的実施して生徒の学力向上の意識を高める。
- ④移動教室及び長期休業期間中を活用し、大学、専門学校及び企業への訪問、さらにインターシップを積極的に推進し、進路決定に役立たせる。
- ⑤地域内就職希望生徒の選択拡大に向け、島内官公庁等連絡会などで、募集促進を積極的に要請する。
- (自己評価) 進路の手引を7月に発行できた。拡大進路部会は目標を達成できた。長期休業中の講習は、夏期においては30講座実施した。全学年クラッシー導入による研修・授業展開が来年度期待される。

### 3) プレゼンテーション能力の育成

- (取り組み) 移動教室や修学旅行などの行事等の終了後に、生徒全員が機会を経験できるよう、発表会形式の場を設ける。
- (自己評価) 行事の後に発表会を行うことができ、多くの生徒が経験できた。発表による効果が今後期待できる。

## 〔 特別活動・部活動 〕

### 1) 生徒会活動の活性化

- (取り組み) ①生徒全員が委員会活動や部活動等の生徒会活動のいずれかに所属し、活動させる。
- ②学校行事については、生徒が主役となるよう、生徒自身が企画・運営し、達成感・成就感を経験させる。
- (自己評価) 新役員決定後に活動目標と活動計画を立てさせることができた。行事の活性化を図ることができた。学校行事の活性化、地域ボランティアの励行等、生徒全体に働きかける活動を活発に行った。

### 2) 部活動の強化

- (取り組み) ①校内体制を整備し、全体計画や活動計画を作成し、部活動全体のレベルアップを図る。
- ②外部指導委員の活用や地域住民との連携を図り、生徒の技術力の伸長を図る。
- ③小学校・中学校等の連携を図り、部活動を通じて、早い段階から子どもたちに興味・

関心をもたせる。

(自己評価) 本校学校経営計画の重点項目であり、部活動加入率80%。これから、生徒は挨拶や礼儀が身に付けさせ、規律を守り、学校生活に活気が溢れるようにする。また、波及効果として、学校行事(体育祭や文化祭、球技会等)へ、生徒が自ら考え意欲を持って行動するように指導する。17時以降の運動部の活動延長の際は、定時制課程との連携により実現しており、今後もより良く連携する必要がある。

#### [ 健康づくり ]

##### 1) 健全育成の促進

(取り組み) ①警察署及び保健所等の関連機関との連携を図り、薬物乱用防止教室やセーフティ教室等を年間2回以上実施し、人権尊重及び人命尊厳の精神を育成する。

②ホームルーム活動、学校行事等を通して、「思いやりの心」の育成を図る。

(自己評価) 関係機関と連携した薬物乱用防止講演とセーフティ教室を実施し、生徒の意識向上を図った。また、地区ごとに開催される青少年対策地域委員会に参加し、地域との連携した生活指導を実現した。

##### 2) 健康診断の効果的な活用

(取り組み) ①学校保健計画に定めた内容を確実に遂行し、組織的・計画的に校内の保健・衛生の向上に努める。

②定期健康診断の事後指導を徹底し、健康診断結果を有効に活用する。

(自己評価) 年間保健計画に従い、計画通りの実施ができた。一方で、学校保健委員会が実施できた。

#### [ 募集・広報対策(地域交流等) ]

(取り組み)

1) (募集) 中学生の八丈島からの流失防止に向け、副校長、教員の中学校訪問を積極的に実施する。

2) (広報対策) ①自校のホームページ更新を2週間に1回以上行う。

②地元新聞社に生徒の活躍を中心に情報提供し、報道を依頼する。

③「校長室だより」を定期的に発行し、本校の教育活動について理解を得る。

(自己評価) 新聞への掲載への手順を系統化して、掲載への働きかけができる環境づくりができた。調印式・ハワイ連携・夕張高校と高校連携・小笠原高校と高校連携が実施を掲載働きかけを行った。ホームページの新規取り組みも十分に行えた。

町の事業であるショートスティから受験者が希望が出る取り組みをする。合同説明会で島留学受験希望者に説明2組受験した。また、島外からの受験者が2名と次年度以降島外からの受験者拡大の用意をする。

青ヶ島中学からの受験者を可能にするために学校説明会を青ヶ島中学で行った。

#### [ 学校経営・組織体制・経営企画室の経営 ]

(取り組み)

① 小学校、中学校との教科間交流及び学校間連携を組織的に推進する。特に中学校主催の中学校教育研究会の各部会に参加し、情報の共有化及び指導方法の改善を図る。

②主幹教諭及び主任教諭を中心に組織的に職務を遂行し、適正な学校運営を行う。

③ 個人情報の適正な管理に向け、管理体制の総点検を行うとともに、意識高揚に向け、年2回の服務事故防止月間で、校内研修を実施し、職員のサービスの厳正への意識を高める。

④ あらゆる状況に適切に対応できるよう、再度、「危機管理」体制を見直し、マニュアルの徹底を図る。

⑤全教育活動から体罰等を根絶するために次の取組を行う。

ア 体罰を根絶するためサービス事故防止月間等を活用して教員研修を実施する。

イ 体罰をチェックする機能を強化する。

ウ 体罰を容認する風土をつくらない。

エ 体罰のない部活動を推進する。

⑥経営企画室を中心とした適正な予算執行、施設管理を行う。

⑦省エネ対策として、こまめに電気を消すなど、使用電氣量を最小限にとどめるよう、全員で取り組む。

⑧積立金や諸費の延滞者や未納者を管理し、早め早めの対応を行うことにより、延滞者を減らし、未納者を0にする。

(自己評価) 個人情報の適正な管理では、管理体制の見直しをとおして事故0(ゼロ)を実現した。

「危機管理」体制では、火災と津波時の対応を避難訓練をとおして徹底できた。体罰根絶のために校内研修を2回実施し、事故0(ゼロ)を実現した。予算の適正な執行・管理、納入金管理では、法令・条例等を遵守し、効率的な事務・業務の遂行ができた。

〈園芸科・家政科の教育活動の充実〉

〈園芸科及び農場〉

(取り組み)

①中学生及び保護者・地域に園芸科の理解を深めるため、体験入学、公開講座、及び小学校・中学校への野菜や草花の提供を行う。

②中学校への広報・募集活動を充実させ、園芸科への入学者数を増加させる。

③農業クラブ活動を活性化し、生徒の活動成果を地域内外に情報発信する。

④実験実習中の事故発生0(ゼロ)を目指す。

⑤農薬を適切に使用し、自然環境に優しい農業栽培に努める。

(自己評価) 改善した広報活動、授業交流や学校紹介、体験入学を行い、入学希望者の目標を達成できた。農業クラブでは成果を2月の発表会で報告し、教育機関や地域住民に活動内容を理解してもらうことができた。

〈家政科〉

(取り組み)

①校外実習による体験授業を充実する。

②中学生及び保護者・地域に家政科の理解を深めるため、体験入学、公開講座、及び、中学生とその保護者対象の説明会を充実させる。

③中学校への広報・募集活動を充実させ、家政科への入学者数を増加させる。

④小学校、中学校との教科間連携を通し、情報交換及び授業力向上・授業改善を図る。

⑤長期休業中に中学校で出前授業を実施し、生徒たちに興味・関心をもたせるとともに、募集対策へ繋げていく。

⑥実験実習中の事故発生0(ゼロ)を目指す。

(自己評価) 中学生対象の体験入学、四校連絡会等での広報活動、小中学校家庭科教諭との連携、家政科ニュースの発行、地域行事への協力をとおして、入学者数増加を実現できた。

(2) 重点目標達成率と次年度への方策

□学習指導

○授業の満足度(肯定的評価)数値目標

平成29年度目標 95%以上

(H25実績97%、H26実績92%、H27実績100%、H28実績89%、H29実績89%)

(次年度への方策) 授業力向上に向けた教科研修の充実を図る。

□生活指導

○生徒遅刻 数値目標

平成 29 年度目標 15 回以上 4.5%以下

(H25 実績 4.8%、H26 実績 4.3%、H27 実績 3.9%、H28 実績 4.8%、H29 実績 2.8%)

(次年度への方策) 個別指導及び家庭への連絡、さらに朝の校門指導を継続し、徹底を図る。

○部活動加入率 数値目標

平成 29 年度目標 90%

(H25 実績 85%、H26 実績 85%、H27 実績 88%、H28 実績 80%、H29 実績 80%)

(次年度への方策) 部員の活動環境を整え、部員の確保を図る。

□進路指導

○卒業時の進路決定率 数値目標

平成 29 年度目標 100%

(H25 実績 96.7%、H26 実績 95.7%、H27 実績 100%、H28 実績 100%、H29 実績 100%)

(次年度への方策) 進路指導の早期対応、支援体制の充実や細かい面接指導の充実を図る。

□その他の教育活動における 数値目標

○中途退学者(進路変更者)

平成 29 年度目標 0 名

(H25 実績 1 名、H26 実績 1 名、H27 実績 0 名、H28 実績 3 名、H29 実績 1 名)

(次年度への方策) 校内の指導体制の強化を図り、全体で情報および相談活動を行っていく。

○図書の貸し出し冊数

平成 29 年度目標 一人 4.0 冊以上

(H25 実績 4.1 冊、H26 実績 2.5 冊、H27 実績 2.1 冊、H28 実績 3.5 冊、H29 実績 3.5 冊)

(次年度への方策) 利用促進に向け、委員会を中心とした広報活動の充実や利用時間の拡大や方法を改善する。

○授業公開の保護者及び地域住民の参加者数

平成 29 年度目標 120 名以上

(H25 実績 101 名、H26 実績 106 名、H27 実績 102 名、H28 実績 105 名、H29 実績 105 名)

(次年度への方策) 開催の周知徹底や広報活動の改善を行う。